

シース抵抗体・パイプスタイル抵抗体の取り扱い注意事項

1. 精密機器ですので衝撃が原因で故障することがあります。
2. シース抵抗体の先端部に素子が入っていますので、先端から100mm程度は曲げないで下さい。
3. シース抵抗体を曲げる場合、最小曲げ半径をシース外径の2~5倍（JIS推奨は5倍）以上として下さい。JIS推奨値外の曲げを適用する際は、当社までご相談下さい。
4. 溶接部では曲げないで下さい。
5. 導線を無理に引っ張ったり、接続部付近で曲げると接続部分が断線することがありますのでご注意下さい。
6. 耐熱仕様の指定がない製品については、センサーと導線の接続部の温度は80℃以下に保って下さい。高温による樹脂の劣化が断線や絶縁不良の原因になります。
7. 端子のネジの緩みに注意して下さい。
8. 機械装置に取り付けられたセンサーを、足場や支持具に使用しないで下さい。